

アジアタ・グループ (AXIA)

合併・統合に伴うシナジー効果、デジタルビジネスでAI
 活用のスケールアップに伴う生産性向上が成長の両輪
 マレーシア | 通信事業者 | 業績フォロー

BLOOMBERG AXIATA :MK | REUTERS AXIA.KL

- 2026/12 期 1Q (1-3 月) は、マレーシア・リンギット高の影響を除くベースで、売上高が前年同期比 8.5%増、EBITDA が同 11.2%増。
- グループ全体のコスト管理強化やマレーシアおよびインドネシアにおける傘下企業の合併シナジー効果などが業績に貢献した。
- 合併・統合に伴うシナジー効果、デジタルビジネスで AI (人工知能) 活用のスケールアップに伴う生産性向上が成長戦略の両輪である。

What is the news?

5/25発表の2026/12期1Q (1-3月) は、売上高が前年同期比3.2%減の28.0億MYR (除く為替の影響では8.5%増)、EBITDAが同11.2%増の13.5億MYR (同25.9%増)、純利益が同71.3%増の2.7億MYR (同71.3%増)。端末販売および外国為替変動やその他例外的な変動の影響を除いた基礎的 (underlying) 純利益は同3.6倍の4.3億MYRだった。マレーシア・リンギット高が業績への逆風となったものの、為替の影響を除いた事業本体の業績は、グループ全体のコスト管理強化やマレーシアおよびインドネシアにおける傘下企業の合併シナジー効果などの貢献により堅調に推移した。1Qの前四半期比では、為替変動の影響を除く売上高が1.8%減、基礎的純利益が18.4%減だった。

1Qのセグメント別の売上高 (現地通貨建て) は以下の通り。①デジタル通信事業 (Digital Telco) は、Robi (バングラデシュで通信事業) が8.1%増、Dialog (スリランカのモバイル通信ネットワーク) が9.2%増、Smart (カンボジア通信事業) が7.3%増、2022年に買収したLink Net (インドネシア) が18.4%減だった。②デジタルビジネス事業は、電子ウォレットサービスのブーストが2.3倍、アジア9ヵ国で総合デジタルマーケティング事業を展開するアジアタ・デジタル・アドバタイジング (ADA) が10.7%増だった。③インフラストラクチャー事業のedotcoが6.6%減だった。④持分法適用会社では、同社傘下のセルコム、およびノルウェー系テレノール傘下のDigi ドットコムとの合併会社セルコムDigi (CDB) が、売上高で前年同期比横ばい、EBITDAで4.7%増だったほか、傘下のXL (インドネシア通信事業) とインドネシアの財閥シナルマス・グループの傘下スマート・フレンが2025年4月に合併して設立した「XLスマート」が売上高で37.6%増、EBITDAで25.0%増と堅調に推移した。

How do we view this?

通期会社計画は、為替の影響を除く EBIT (利払い前税引前利益) が前期比 1 桁台後半の伸び率と、従来計画を据え置いた。

積極的な合併戦略により、セルコム Digi が 2 千万人以上の消費者および企業の加入者数を擁するマレーシア最大手となったほか、スリランカでは 24 年 8 月に Dialog がエアテル・ランカを吸収合併。また、インドネシアでは、「XL スマート・テルコム・スジャトゥラ」(アジアタとシナルマスのそれぞれのグループが 34.8%ずつ出資) が、携帯電話通信の利用者数で 9450 万人、シェアで 27%を占めており、合併後は基地局の再編などを進め、合理化などで 3 億~4 億ドルの相乗効果を生み出しながら、5G などへの成長投資を増やす方針だ。2026 年度はこれらの合併・統合に伴うシナジー効果発揮に加え、デジタルビジネスにおいて AI (人工知能) 活用のスケールアップに伴う生産性向上の効果が見込まれる。

業績推移

※参考レート 1MYR=39.409円

事業年度	2023/12	2024/12	2025/12	2026/12F	2027/12F
売上高 (百万MYR)	22,264	12,542	11,758	12,279	12,738
当期利益 (百万MYR)	-1,995	947	365	624	892
EPS (MYR)	-0.22	0.10	0.04	0.08	0.11
PER (倍)	-	22.54	61.60	24.63	17.91
BPS (MYR)	2.40	2.31	2.22	2.26	2.25
PBR (倍)	0.89	1.01	1.11	0.87	0.87
配当 (MYR)	0.10	0.10	0.10	0.10	0.11
配当利回り (%)	4.68	4.31	4.06	5.28	5.58

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

フィリップ証券株式会社

配当予想 (MYR) **0.10** (予想はBloomberg)
 終値 (MYR) **1.97** 2026/6/16

会社概要

1992年にテレコム・マレーシアの1部門「テレコム・マレーシア・インターナショナル」として設立後、2008年にテレコムマレーシアから分離独立。アジア最大の通信グループの1つで、モバイルネットワーク、通信インフラストラクチャーおよびデジタルサービスなど多様な事業ポートフォリオを持つ。事業展開する国・地域は10市場にまたがる。

同社グループは以下の主要3事業セグメントを運営する。

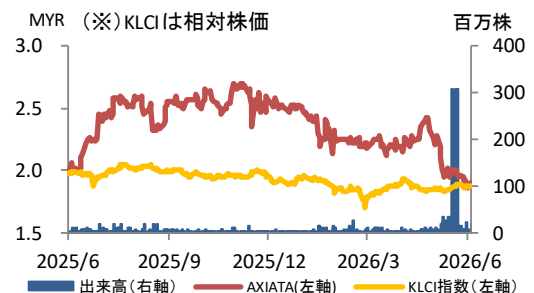
①主力の通信事業は、マレーシアの合併会社「セルコムDigi」、インドネシアの合併会社「XLスマート」および子会社「Link Net」、スリランカの「Dialog」、バングラデシュの「Robi」、カンボジアの「Smart」などのモバイル事業子会社を傘下に持つ。

②デジタル・ビジネス事業は、ADS(アジアタ・デジタル・サービス)が統括しており、その傘下にマイクロファイナンスの「アスピラシ」、電子ウォレットサービスの「ブースト」、アジア9ヵ国で総合デジタルマーケティング事業を営む「アジアタ・デジタル・アドバタイジング (ADA)」を擁する。

③通信インフラストラクチャー事業は、「edotco」が5ヵ国で通信インフラストラクチャーサービスを提供し、2万5千ヶ所以上の拠点を持つ。

企業データ (2026/6/16)

ベータ値	1.15
時価総額 (百万MYR)	18,101
企業価値=EV (百万MYR)	35,370
3ヵ月平均売買代金 (百万MYR)	31.8



主要株主 (2026/6)

	(%)
1. ガバナショナル	36.39
2. EMPLOYEES PFB	19.79
3. AMANAH SAHAM NASIONAL BHD	16.59

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

リサーチ部

笹木 和弘
 kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp
 +81 3 3666 6980

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会認定アナリスト、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考としてレポートの作成者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害について、フィリップ証券も、本レポートの作成者も、責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載することを禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則（平14.1.25）」に基づく表示>

・フィリップ証券または本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。